

シラバス

| | | | |
|------------|--|---------|----------------------------|
| 授 業 科 目 | 薬物作用の基礎(H18～)・薬品作用学(～H17) | | |
| (英 文 名) | Pharmacological bases of drug actions・Pharmacology | | |
| 担 当 教 員 | 塩見浩人 | | |
| 単 位 数 (期別) | △2(後)(H18～) ・②(前)(～H17) | 対 象 学 生 | 2P(H18～) ・2PY.2PS(～H17) |

■授業のねらい・概要■

生体内における薬物作用に関する基本的知識を習得し、自律神経系、知覚神経系・運動神経系に作用する薬物の作用機序について学ぶとともに、その薬物作用に対する生体側の制御的調節機構による薬効修飾についても理解できる能力を養う。【C13(1),(2)】、【C14(1),(2)】

■授業(学習)の到達目標■

【薬の作用】

1. 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。
2. 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。
3. 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理機能変化を説明できる。

【自律神経系に作用する薬】

1. 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。
2. 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。
3. 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。

【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】

1. 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な作用について説明できる。
2. 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。

■回数ごとの授業内容■

- | | |
|---|--|
| 1 薬の作用-1:薬物の作用発現に関与する、受容体、酵素およびチャネル | 11 自律神経系に作用する薬-9:アドレナリンβ受容体作用薬作用薬の作用 |
| 2 薬の作用-2:細胞内情報伝達系と生理反応 | 12 β受容体遮断薬の臨床応用・副作用 |
| 3 自律神経系に作用する薬-1:自律神経系概説(機能、自律神経の優位性、自律神経反射と自律神経薬の反応、薬物の作用部位、受容体サブタイプ) | 13 自律神経系に作用する薬-10:アドレナリンα、β受容体遮断薬、アドレナリン作用性神経遮断薬、α-メチルドーパの作用ならびに臨床応用・副作用 |
| 4 自律神経系に作用する薬-2:コリン作用薬、アセチルコリン誘導体、間接型副交感神経作用薬(コリンエステラーゼ阻害薬)の作用 | 14 末梢性骨格筋弛緩薬の作用とその臨床応用:骨格筋収縮の生理、神経筋接合部興奮薬、神経筋接合部遮断薬、競合性遮断薬と脱分極性遮断薬、ダントロレンの作用ならびに臨床応用・副作用 |
| 5 自律神経系に作用する薬-3:コリン作用薬、コリンエステラーゼ阻害薬の臨床応用 | 15 局所麻酔薬の作用と臨床応用:局所麻酔薬の作用機序、局所麻酔薬と薬物併用、局所麻酔薬の臨床応用と副作用 |
| 6 自律神経系に作用する薬-4:抗コリン薬の作用、合成抗ムスカリン作用薬の作用 | |
| 7 自律神経系に作用する薬-5:抗コリン薬、合成抗ムスカリン作用薬の臨床応用・副作用 | |
| 8 自律神経系に作用する薬-6:神経節興奮薬、 | |

シラバス

神経節遮断薬の作用ならびに臨床応用・副作用

- 9 自律神経系に作用する薬-7：アドレナリン α
受容体作用薬、 α 遮断薬の作用ならびに臨床
応用・副作用
- 10 自律神経系に作用する薬-8：アドレナリン β
受容体作用薬作用薬の作用ならびに臨床応
用・副作用

■成績評価の方法・基準■

- ①総合的評価のため、講義内容全体を網羅した期末試験をおこなうが、講義中の質問に対する対応も評価の対象とする。
- ②各項目が終わった時点で到達度チェックを行う。
- ③コンピューター自己学習施設（31号館1階）を利用して持続的に自己学習をすることも奨励する。
- ※③は、受講者全員に強制するものではないが、学習態度・意欲として最終評価において評価の対象になる。

■使用テキスト■

教科書は指定しない。ただし、個々の学生にとって理解し易い参考書を持つことを推奨する。講義にはプリントを配布する。その中に講義に対する学生の到達目標を明示する。

■参 考 書■

グッドマン・ギルマン薬理学（上・下）（廣川書店）、シンプル薬理学（南江堂）、NEW 薬理学（南江堂）、標準薬理学（医学書院）、薬と疾病Ⅰ．薬の効くプロセス（東京化学同人）など。

オフィス・アワー

(授業内容等の質問・相談日)

月曜日～土曜日：随時